

# 要介護者に経済的にゆとりのない人が多い

諏訪広域連合による**在宅**の要介護認定者を対象とした実態調査によると、暮らしに経済的なゆとりのない人が多い。「苦しい」と答えた人が20%、「やや苦しい」が40%で両者を合わせると**60%**、**3人に2人はゆとりがない**と答えています。

80歳以上に沢山いる要介護認定者の多くは年金収入に依存していますが、農業や自営業に従事していた人が多いため共済年金や企業年金のある厚生年金の受給者は22%に止まり、最高額でも月額6.6万円の**国民年金受給者が45%**とほぼ半数を占めていて、経済的にゆとりのない人が多い原因になっていると思われます。

高齢で要介護になると医療費や介護費用の自己負担分もばかにならない金額になり、これらが収入の少ない暮らしには一層大きな負担となります。

在宅の介護が限界になったとき入所施設利用が頼りですが、現状の月額15万円前後の利用者負担金を負担し続けることが困難な人が沢山います。経済状況が苦しくても老後の暮らしの安心としての施設利用を保障するためには、**減免措置があり国民年金の受給額内で暮らせる特養(特別養護老人ホーム)の整備**が欠かせません。

